

本部移転、開業は10月1日 : 2014年度総会にて報告済み



写真は府中公民館の正面玄関と左白亜の建物へ入居予定



SNK本部移転先：御井校区府中公民館
新住所：久留米市御井町387

移転に伴う9~10月の予定

9月

- ・移転先の各種工事は第1週目に始める
ケーブル配線 ONU の設定・電話番号の決定
教室無線 LAN のテスト
- ・事務局のPC他開通工事、電源コンセント工事、
教室エアコンを設置する
- ・パソコンの講座、教室は現地の事情を考慮する。
- ・各教室は9月26日~10月初めは教室を休む。
- ・移転日は9月28日(日)、予備日29,30日。
- ・キャビネットの移転、官公庁他へ各種の届出

10月

- ・1日~荘島事務局のNTT光端末撤去、
- ・SNK借用個所の原状回復工事

移転は事業プロジェクトチーム(リーダー橋口)、
チームの構成は事務局と講座運営委員会の常任
メンバーが当る 副理事長 中丸哲子



(あとがき)天のどこかに大きな穴でもあいたのか大雨が降る。
異常気象に翻弄される不幸がニュースとなる。秋は本部移転が
決まった。かって筑後地方の政治のまん中だった府中へ(弐)



編集・発行
NPO シニアネット久留米
理事長 小島紀夫
久留米市荘島町13-1
TEL 0942-46-2277

生命を見つめる

暖かい日が続く初夏を思わせる暑い日、庭の木剪定の準備で木々を見ていると、南側窓に近く
椋の枝が茂り、そこに鳥の巣があることに気付いた。それ以来、庭の隅を気をつけてみていると
土鳩がやってきて暫く憩いやがて飛たって行く。庭の掃除の折に思いだして、この鳥の巣を取り
外した。取り外して気づいたのだが卵が2個入っている。これは困った、ということで元通り椋
の枝に戻してやるものの鳥の巣は枝に収まらず浮いてしまう。それ以上力を入れて枝に抑え込む
と鳥の巣は壊れてしまう、というので曖昧に載せた状態で放置した。

最近、我が家近くに増えたのが鴉と土鳩、それはうさく鳴き糞をして辺りを汚し邪魔な存在
にすぎない鳥たち、という認識である。

待っていると母鳥は飛んできた、そして巣を温める姿勢に入るが、何度も何度も巣を注意して
見ている風情、母鳥も巣の異常に気付いたのだ。やがて母鳥は巣にうずくまり抱卵を始める。巣
に近い南側の窓から見れば、巣はすぐ目の前に見下ろす形にある。手を伸ばせば届く距離にあり、
それは母鳥の気付くこととなり、私は初めて鳥にも表情があることに気付いた。それは虎に対す
る恐怖の目だったと思うし、ライオンの前で金縛りにあった小鹿みたいなもの、そう読める目で
あり表情だった。母鳥がどうするか? 私は興味をもったものの窓からのぞくのをやめた。暫く
して見ると鳥は抱卵を続けている。“孵化するまで卵を温めて母鳥の務めを果たしてくれ”とい
うのがその時の私の希望だった。それから毎日、土鳩の姿をカーテン越しに見た。

ある日、雛と母鳥の経験がすっかり当てはまる絵本を見つけた。

エリックカールがその人で『動物さんぽ：母鳥とヒナ』ショートショートで語られる。

物語は草原と森の境界に育った若木を切り倒すことで事件ははじまる。若木には鳥の巣が作ら
れ、その巣には3個の卵が見つかる。鳥の巣をもとに戻すため若木の根元を削り土に突き刺し、
元通りの状態を再現する。だが切り倒された若木はやがて葉を落とし枯れ木へと変貌していく。

母鳥はヒナの生長まで、遮るものの無い巣で、暑い日差しに堪え辛抱強く務めを果たす。鳥は
枯れ木となった巣で抱卵を続けてヒナの孵化を達成する。やがて、鳥の雛は生長し森へ飛びたつ。

この絵本にある小さな物語は、命を見つめる人間の心を書き、命の尊さを書いているわけだが、
人はそこに命を認め命の尊厳に触れて、感動という貴重な体験を子どもたちに教える。

人はいろいろの感情をもって生きる。また、人間の感情には激しさもあり深さという側面もあ
る。激しい感情は目に見える行動として表れやすく他人の目にもよくわかる。それに比較して感
情の深さについては、よほど注意してみなければ人に分かるものではない。エリートの両親を持
った長崎の高校生が起こした事件は、心の闇を教えていて不気味だ。学校、地域、そして隣人と
して暮らす人たちに出来ることはなかったか? 精神の疾患で片付けてはならない。

高齢者である私たちは自立して生きることが問われている。椋の木に育った土鳩の後日談であ
る。2羽の土鳩が電線に留まり、我が家の小さな庭を見下ろしている。未だ若く体型の小ぶりな
2羽の鳥は初々しく「元気だよ」と言いたげである。タイミングよく目が合った私に視線を落と
していたが、やがて彼方の森へ飛んで行った。
(編集長 一ノ瀬尚文)

特集 ネットワーク ともだちの輪 流し灯籠 伝統と環境を守る仲間

昭和33年から続く祖先を祀る伝統行事

流し灯籠 2014.8.15

久留米・流し灯籠」が瀬下町の水天宮横筑後川河川敷で行われました。15日は降ったりやんだりの生憎のお天気でした。それでも多くの市民が訪れて先祖の供養をされました。流し灯籠は毎年終戦の日に行われており、地元「流し灯籠保存会」の皆さんや、久留米観光コンベンション協会の協力を得ています。

15日は屋ころ大雨警報・洪水警報が出るなどの悪天候で今年は中止もやむをえないかとの不安を抱きながら16時からの本番を迎えましたが、奇跡的にほとんど雨も振らず、逆に雨の前にとお客さんは例年より1時間ほど早く来場され、盛況のうちに約3000個の灯籠が筑後川に流されました。

この行事には「シニアネット久留米」の有志がボランティアとして参加し、今年で第10回目となりました。今回のSNK参加者は25名でした。前日のテントの設営・灯籠作り・翌16日早朝の灯籠の回収作業も無事終わりました。

今年の灯籠は一旦川上へと行き、Uターンして川下へ流れて行きました。川下に流れて行った灯籠が静かに漂って風情のある景色、お陰さまで今年も無事に流し灯籠が出来ました。とはいっても、舟から川面を覆い尽くしたこれらを拾い集める作業は労力を必要とします。夜景を彩った美しい風情も一夜でゴミとなる。ここにも無常を感じました。今年からテントは流し灯籠保存会の専用になったことを報告します。

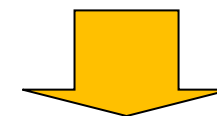
理事 島井 新一郎

- 写真1・流し灯籠保存会の専用テント内で灯籠の組み立て作業を行う（500円にて販売）。
2・灯籠流しは16時頃から22時頃までの間に約3000個、筑後川に流された灯籠の火は川面に照り映えて流れ、風向きにより対岸ゴルフ場周辺に流れ着きました。
3・翌日早朝からのごみ回収、ほとんどが舟に乗ってゴルフ場周辺の回収、作業は力のいる大変な作業となる。回収したごみの山、写真は16日の成果です。



地域に根を下ろし活動する団体のネットワーク

- ☆久留米流し灯籠保存会 (石橋勉会長他7名)
- ☆地元町内会 (地元防犯協会 約30名)
- ☆黄櫨の美共同作業所 (灯籠づくり 約30名)
- ☆シニアネット久留米 (参加応援者 25名)



SNKが主として行うボランティア仕事の内容

- (1) 8/11(月)10時 試験場前のレンタルボックス(貸し倉庫)と津福サロンからテントなどの資材を荘島プラザへ軽トラで搬入。
- (2) 8/15(金)の早朝5時半から荘島プラザより軽トラック2台で各種資材を河川敷へ運ぶ。資材はテント、テーブル・椅子、竹竿など20本程度。
- (3) 8/15(金)朝6時から会場(水天宮下の河川敷)でテント張り、机配置照明電灯(ちょうちん)の取り付けなどの会場作り作業。
- (4) 8/15(金)16時から本番。会場での灯籠の組み立て・受け渡し手伝い・お供え物の受け取り整理・会場案内・整理など。夜10時ごろまで。
- (5) 8/16(土)早朝6時から川に流された灯籠の拾い集め作業。流された灯籠を竹竿でかきよせて回収・軽トラに積み込み。灯籠回収終わってから持ち込んだテントなどの撤収作業。

灯籠流しボランティア参加の皆さん

雨模様で心配しましたが、大勢の皆さんが先祖の供養に来られました。8月15日「流し灯籠」は、久留米市のお盆の風物詩としてすっかり定着したようです。今年もSNKは島井さんの指示のもと、25名の皆さんがボランティア参加され、お陰様で無事終了しました。準備、本番、灯籠回収等、ご協力の皆さんに厚く御礼申し上げます。久留米市でも郷土の伝統行事として、『流し灯籠』の会場である筑後川に集まり、SNKでは10回目となるボランティア応援です。

資源である筑後川の環境保護(河川の汚染防止)、及び祖先を敬うお盆の行事に貢献しよう、という主旨でSNKはボランティア応援を続けているものです。

理事長 小島紀夫

MORIMITSU 株式会社 森光商店
Grain, Food, Petlife Div
お客様の「価値」を創る商店へ
『価値創造商店』
本店 佐賀県鳥栖市藤木町若桜9-7
Tel0942-85-1125 Fax 82-9780

ホテル ニュープラザ久留米
Tel.0942-38-6155 Fax0942-38-6583



この指とまれ、あなたと話そう、あなたと遊ぼう、みんなが集まる世界をつくろう